資料６①

新潟大学　倫理審査委員会　オプトアウト書式

①研究課題名	NHDX 遠隔医療支援体制の構築に向けた「D to P with N」における実践・教育・支援システムの検討：観察研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
令和７年度２学期に医学部保健学科看護学専攻で看護学特論Ⅱを履修した学生 研究責任者坂井さゆり	
③概要：本研究は、現在新潟大学共創イノベーションプロジェクト（IP）で実施されている新潟医療 DX 共創 IP（NHDX）において、実証フィールドの医療機関で実施されている遠隔医療の実践、および新潟大学の看護学生・医学生を対象として実施されている遠隔医療連携実習について観察・評価し、D to P with N の実践および教育における課題、運用上のニーズならびに必要な支援内容を明らかにすることを目的としています。また、D to P with N における医療従事者の情報収集・伝達・記録に関する業務プロセスを明らかにし、遠隔医療の実践を支援するために必要な教育内容および支援体制について検討します。	
上記研究目的を達成するために、令和７年度２学期に新潟大学医学部保健学科看護学専攻で看護学特論Ⅱを履修した学生が提出した遠隔医療連携実習の自己評価表、授業の学びのレポートを研究データとして使用させていただきたい。この資料提供を行うかは、自由な意思でお決めください。資料提供をお断りになることもできます。但し、自己評価表は無記名で提出されているため、お断りいただくことはできませんが、個人が特定されるような内容を十分に確認の上、適切に処理いたします。授業の学びのレポートは、お申し出があれば研究対象から除外いたします。その場合、不利益をこうむったりすることは全くありません。下記のお問合せ先までご連絡ください。	
④申請番号	2026-0155
⑤研究の目的・意義	本研究では、NHDX で行われている「D to P with N」の遠隔医療を対象に、看護師がどのように患者の情報を収集し、医師へ伝え、記録しているのかを調査します。そのうえで、実際に遠隔医療に携わる看護師が感じている課題や負担、必要としている教育・支援を明らかにし、より安全で実施しやすい遠隔医療の体制について検討します。さらに、得られた知見をもとに、将来的には、患者との会話などから AI を用いて SOAP 形式の看護記録案を作成する仕組みについて検討します。AI が作成した記録案について、内容の正確さ、必要な情報が含まれているか、簡潔でわかりやすいか、看護記録として適切かなどを確認し、看護師の記録業務を支援する技術として活用できる可能性と課題を明らかにすることを目指します。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から 2028 年３月 31 日まで
⑦情報の利用目的及び	遠隔医療連携実習の自己評価表、授業の学びのレポートを活用し、遠隔

利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	医療を推進するための教育方法の検討の基礎資料として使用することを目的としています。
⑧利用または提供する情報の項目	自己評価表の全ての項目、学習の学びレポートの全ての項目を使用させていただきます。情報は個人が特定されないように処理し分析データとして使用させていただきます。
⑨利用する者の範囲	新潟大学で NHDX プロジェクトメンバーであり、本研究の研究組織内で利用いたします。
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯保健学研究科　教授　坂井さゆり
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の拒否や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 所属：新潟大学大学院医歯保健学研究科 氏名：坂井さゆり Tel：025-227-0941 E-mail：sakai@clg.niigata-u.ac.jp